

# A geographical study on the production area formation of the broiler industry in Japan

著者	長坂 政信
内容記述	Thesis--University of Tsukuba, D.Eng.(B), no. 612, 1990.7.31
発行年	1990
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/3003">http://hdl.handle.net/2241/3003</a>

氏 名(本 籍)	なが 坂 まさ のぶ 長 坂 政 信 (神奈川県)
学 位 の 種 類	理 学 博 士
学 位 記 番 号	博 乙 第 612 号
学位授与年月日	平成 2 年 7 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当
審 査 研 究 科	地 球 科 学 研 究 科
学 位 論 文 題 目	A GEOGRAPHICAL STUDY ON THE PROCUDCTION AREA FORMATION OF THE BROILER INDUSTRY IN JAPAN (日本におけるブロイラー産業の産地形成に関する地理学的研究)

主 査	筑波大学教授	理学博士	山 本 正 三
副 査	筑波大学教授	理学博士	奥 野 隆 史
副 査	筑波大学教授	理学博士	佐々木 博
副 査	筑波大学教授	理学博士	高 橋 伸 夫
副 査	筑波大学助教授	理学博士	斉 藤 功

## 論 文 の 要 旨

この研究の課題は、日本のブロイラー産業の産地形成過程を考察し、産地形成の地域的条件と一般的条件を明らかにすることである。そのため、次の方法が用いられた。

(1) 産地形成の発展段階の異なる地域の設定。まず初めに日本のブロイラー産業の発展段階を 4 つに区分し、先進的産地である大都市圏周辺地域と新興産地である遠隔地域とに類型化した。(2) 立地環境の異なる地域の設定。大都市圏周辺地域と遠隔地域の中から、ブロイラー飼育環境の異なる代表的な地域、すなわち、大都市圏周辺地域からは西日本の兵庫県但馬地方と東日本の静岡県富士地方、遠隔地域からは西日本の宮崎県児湯地方と東日本の岩手県北上地方を選定し、地域調査を実施した。

その結果、以下のようなブロイラー産業の産地形成の一般的条件が明らかになった。

- 1) 総合商社を始めとする農外資本と系統農協がブロイラー産業に参入し、処理場を核として契約飼育農家を地域的に組織化することによってブロイラー産業の地域形成がなされてきた。
- 2) ブロイラー産業が進出した地域は、農業的にみて土地条件に恵まれない山間地や丘陵地で、1ha 未満の零細経営農家が多く存在していた。このため、農家では、地味に左右されず高収益と経営の安定が期待できるブロイラー飼育を契約農業の形態で取り入れることになった。
- 3) インテグレーターの所有するノウハウに従うため、未経験者でも経営しやすく、設備投資額も相対的に少なくすむ施設型畜産であることは、ブロイラー経営を取り入れさせる強い誘因になった。
- 4) しかし、都市化、工業化などによる他産業との競合、輸送手段の発達と需要品目の変動、流通経

路の変化などの経済的・交通的条件や、鶏舎とその付帯設備、入雛・出荷方法の改善などの技術的条件の変化によって、産地の地域変動が生じやすいという難点もある。

次に、ブロイラー産業の地域的条件としては、地域の気候・土壌などの自然条件、耕地面積の広さと栽培作物の種類、労働力構成や資本蓄積などの農家の経営的条件、地域の慣習や住民の気質およびリーダーの有無などの地域固有の社会的条件が、産地形成に大きく関与していることが検出された。

最後に、大都市圏周辺地域ではインテグレーション（地域統合機能）の構造が脆弱なことから、ブロイラー産業を構成する諸要素の空間的配置が分散しているのに対して、遠隔地域では地域統合機能が強力で、空間的配置が集中的かつ広域化していく傾向にある。そのため、日本のブロイラー産業の産地は遠隔地域、とくに特定地域に集中する傾向にある。

## 審 査 の 要 旨

今日、中小畜産業の中核をなしているブロイラー産業の地理的特性に関する研究は、インテグレーションの深化過程や産地の経営構造に注目したものが多く、インテグレーションの地域統合機能の空間構造に着目し、産地形成をもたらす地域的条件や地域的性格を解明しようとした地理学的な実証研究はほとんどなされてこなかった。

長坂氏は、ブロイラー産業を構成する主たる要素としてのインテグレーターとその傘下の飼育農家との両面から、地域との結びつきや産地を形成する諸要因を空間構造論的観点から明らかにすることを試みた。長坂氏はこの研究で、ブロイラー産業に代表される工業型農業の産地形成についての具体研究例を示し、近年拡大しつつある非土地利用型の農牧業地域について一つの研究手法と研究の方向を提示した。これは地理学研究にとって大きな意義があると思われる。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。